

親子で除雪機の製造を体験

夏休みの職業体験に親子10組20人参加

フジイコーポレーション(燕市)

除雪機など開発製造の燕市小池、フジイコーポレーション(藤井大介社長)は四、五の二日間、本社・工場で夏休みの職業体験の催し「うわきつず」を行い、参加した小学生と保護者十組二十人が除雪機の部品の組み立てなどに挑戦した。

近郷の小学生から仕づくりの産業の魅力に触れ、創業百五十周年の平成二十七年からは毎年と一緒に参加した。午

実施し、こしが九回前九時二十分から「入

目。令和二年度の「青社式」に臨み、担当者から同社の事業概要などを聞いた。制服のポロシャツに着替える

五日は小学校三、四、五年生の五人が保護者

メインの体験は部品の収集や組み付け、塗装の下準備、完成品の検査など五つの作業に

少しずつ従事した。除雪機は年間を通じて製造し、国内外へ出荷している。厳しい環境の北欧や南極の観測基地でも使われ、確かな品質が高く評価されている。

塗装の前工程では、部品のねじ穴をシリコンゴムの栓でマスキングした。部位が多く、「先輩」従業員の教えで漏れなく対処した。

汗を流すことで保護者の苦勞を知ってもらえれば」と期待した。

エンジン本体に専用部品を組み付ける作業では、ボルトを電動工具で一気に締め、「ダダダ」と響く工具の打撃音に「びっくりした」。機種名などのステッカーは手作業でべたりと張り、きれいな仕上がりに満足そう。完成品に負荷をかけて動作に支障がないかも確かめた。

仕事が終わると、昼食の弁当などと交換できる架空通貨「うわきつずマネー」が給料として支給された。

三条市の嵐南小五年生、真保一冨君(二)は「ステッカーを真つすぐに張るのが難しかった。こういう仕事を毎日するのは大変だと思った」と振り返った。

藤井社長は「自分で汗を流すことで保護者の苦勞を知ってもらえれば」と期待した。



電動工具でボルトを締める作業を体験



工場を見学する参加者